

2019 年度現勢調査の実施

2019 年4月から6月に 2019 年度現勢調査を行いました。

ただ、地区内のネットワークを中心とした情報収集であるために、十分な調査とは言えませんが、聴覚障害教職員の総数は 501 名となりました。2018 年度の退職者9 名を昨年度の現勢調査報告の総数 489 名から差し引いて比較すると 21 名の増加になります。今年度の新規採用者は 21 名でした。

<全体の傾向> (統計データについては一部のみで割愛させていただきます。)

- ・聾学校に聴覚障害教職員が在籍していない県は、高知県、長崎県になります。
- ・職種別に見ると、教諭が全体の67%を占めています。その他、事務職など雇用形態の多様化の傾向があります。
- ・年齢別に見ると、年齢が把握できない分を除いて、20 代が 30%、30 代が 31%、40 代が 17%、50 代が 10%、60 代が 2%の割合となっています。20 代と 30 代で全体の 6割を占めています。
- ・県別に見ると、一番多いのは東京都(56 人)、次いで大阪府(55 人)でした。
- ・管理職としての校長は、私立明晴学園と島根県立松江ろう学校の2名です。教頭は埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園の 1 名です。また、首席教諭や主幹教諭となって、準管理職として学校運営に携わる教員もいます。定年退職後の再任用、新しい職種の設定など雇用形態の多様化がみられます。